

# 万行寺報

Mangyoji Jihō

発行 浄土真宗本願寺派 万行寺  
住職 山崎信充  
〒385-0003  
長野県佐久市下平尾4 6 1-1  
電話 0267-67-2460

2025(令和7)年

仏暦2568年

4月号

(第163号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホツがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



## 法住 話職

### 難行の先に易行の道



正信念仏偈に学ぶ  
顕示難行陸路苦  
信楽易行水道楽  
陸路、苦しきことを顕示し  
て、易行の水道を、楽しき  
ことを信楽せしむ。

「現代語訳」  
龍樹菩薩は、難行道は苦し  
しい陸路のようであると示  
し、易行道は楽しい船旅  
のようであると勧めにな  
る。

親鸞さまの『高僧和讃』に

は、  
龍樹大士世にいでて

難行・易行のみちをしへ

流転輪廻のわれらをば

弘誓のふねにのせたまふ

とあり、「龍樹菩薩は、この

世に現れて難行道と易行道

の違いを教え、迷いの世界を

生まれ変わり死に変わりし続けて

いるわたしたちを、大いなる

本願の船に乗せてくださる。」

と訳されます。仏道で迷いを

超えるのに、自分の力を頼り

にして陸路を苦しみなから進  
むように難しい「難行道」  
と、阿弥陀さまを頼りにして  
流れに任せ楽しい船旅のよう  
に易しい「易行道」の二つ  
があるといわれるのです。

ここで、大乘の教えを説  
き阿弥陀仏の本願を信じ念仏  
を勧められる易行道ではあ  
りませんが、この信ずることの  
難しさを昨年の十月号に取り  
上げました。「信じることは  
実に難しい。難の中の難であ  
り、これ以上に難しいことは  
ない。」とあり、邪な考え

を持ち驕り高ぶるような私た  
ちには阿弥陀さまを信じ切る  
ことなど本当に難しいとあり  
ます。

見方を変えると、その邪  
な考えや驕り高ぶりに気づき  
乗り越えていくのが難行道  
でもあるとも言えるでしょ  
う。自分の力を頼りに乗り越

えていく難行道の先に易行  
道があるのです。誰もが楽な  
易しい道を選びたいものでは  
ず、そんなに甘くありません。

ところで、私の娘の話に  
なりますが、小さなころは熱

性けいれんを起こし入院した  
り、ジムから頭から落ちて気  
を失ったりしたこともあり、  
初めての子育てでパニックに  
なることばかりでした。常々  
私は仏さまには願ひ事をす  
るものではないというもの  
の、大切な我が子の命に関わ  
ることとなると、わかつてい  
ても「助けてください！」と  
仏さまに願っているもので  
す。

そのように、何においても  
ただ何もしないでいるのでは  
なく、回り道をしてでも何か  
をしてみてから、大きな乗り  
物がすでに用意されている身  
であったと気づかされるもの  
です。ですから、険しい道を  
経てきたからこそ、本当の意  
味の易行道を知ることにな  
り、大きな乗り物にも乗って  
みたいと思えるのでしょうか。

私も、阿弥陀さまに見護ら  
れながら、険しい道を日々歩  
ませてもらっています。



# 浄土真宗 新 仏事のイロハ

## 五、礼儀と作法

— お寺に親しむために —

「御布施の意味」  
御布施は僧侶の報酬ではありません

法事や月忌参りなどで、僧侶を招いて仏事を勤める時、御布施が渡されますが、この御布施の「額」が気になる人がいます。「いくらぐらいお包みすればよいのでしょうか。あまり少ないと失礼です。多すぎて困ることはないのです。」といった調子です。聞ききたいのでしょうか。要は「相場」を聞きたいのでしょうか。しかし、そういうお尋ねがあっても私はできるだけ金額を言わないようにしています。それは、御布施が「自ら進んで上げる」性質のものだからです。ただ言えることは「喜んでさせていただく気持ちが大切」ということですよ。

う。金額を気にするよりも、もつと考えていただきたいことは、御布施本来の意味です。習慣化される中で、私たちが、つい御布施を一種の「報酬」のように捉えてはいないでしょうか。僧侶が読経したことに対する代価、御礼として扱ってしまいがちです。しばしば、表書きに「御経料」とか「回向料」と記した金封に出会いますが、これなどはまさしく僧侶への報酬の感覚です。「御経料」「回向料」「御礼」とはせず「御布施」としましょう。布施というのは、そもそも仏教の大切な実践行の一つで「ほどこす」という言葉で

す。その布施行には、法を説く法施、財物を施す財施、畏怖の念を抱かせない無畏施があります。金封の「御布施」は、このうちの財施にあたるわけです。

さらに、これらの布施を行う場合、施す人と施される人、施し物の三つがともに清浄でなければならぬとされます。つまり、見返りを期待したり、何か魂胆があったりすれば、布施にはならないのです。

ただ、浄土真宗では、こうした布施を、善根を積んでさとり近づくための修行とはせずに、阿弥陀さまの間違いのないすくいを喜び感謝する報恩行としています。すなわち、御布施は僧侶への「報酬」ではなく、仏さまへの報謝として捧げるものなのです。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より



## 年忌法要表

1 周忌	2024 (令和 6) 年	23 回忌	2003 (平成 15) 年
3 回忌	2023 (令和 5) 年	25 回忌	2001 (平成 13) 年
7 回忌	2019 (令和 1) 年	27 回忌	1999 (平成 11) 年
13 回忌	2013 (平成 25) 年	33 回忌	1993 (平成 5) 年
17 回忌	2009 (平成 21) 年	50 回忌	1976 (昭和 51) 年

## 編集後記

「仏事のイロハ」で御布施のことを取り上げましたが、私は、御布施を頂く時、「おあずかりします」と言うようにしています。結果、その中から私の報酬として頂くわけですが、先ず仏さまへという意味があります。◆礼儀と作法に関しては、仏さまを中心に考えられていることが多いです。